

書籍紹介



石ノ森 章太郎 著
鳥影社

「絆 不肖の息子から 不肖の息子たちへ」



皆さんご存じのように、石ノ森章太郎氏は、日本の漫画文化を産み育てた漫画界の巨匠です。私たちの世代（昭和30年代生まれ）は、石ノ森氏の代表作「サイボーグ009」や「仮面ライダー」を、漫画雑誌やテレビで見て育ちました。また、SFやヒーローものだけでなく「HOTEL」や「マンガ日本経済入門」など、幅広い分野で多数の作品を残されています。

石ノ森氏は、1998年1月、リンパ腫でこの世を去られましたが、本書は、その前年までに行ったインタビューを書き起こし、氏が亡くなった後の1998年9月に刊行された語り下ろしエッセイです。

タイトルから想像すると、石ノ森氏の二人のご子息（小野寺丈氏、小野寺章氏）へのメッセージのように取られますが、一読すると、本書は、残された日本人全てに宛てた氏の遺書のように思えます。

本書の前半では、マンガを描き始めたきっかけ、上京して住んだトキワ荘での生活、赤塚不二夫氏ら漫画家仲間との交流、個人の海外旅行が困難だった時代に多額の借金をし、取材の名目で3ヶ月間の世界旅行に行ったこと、その旅行をきっかけに漫画家としてのプロ意識が芽生えたこと、サイボーグ009の連載を始めモーレツに仕事をしたことなどが、高度経済成長期の日本の時代背景を交えながら、石ノ森氏のマンガのようにテンポ良く語られています。

後半では、少年時代のエピソード、父親から受けた影響、二人の息子の父親としての御自分の姿が描かれています。

そして、最終章では、若い人達の苦悩に理解を示しつつも暖かい励ましのメッセージと、21世紀の日本と日本人全体への期待を語っておられます。

本文中でも触れられていますが、石ノ森氏は自分の病が白血病のようなものではないかと疑っていました。巻末の息子さん達の対談によると、本人にはリンパ腫であることは伝えていなかったそうです。膨大な作品を創作し続けた巨匠が、自分に残された時間が少なくなったことを悟り、その残された時間で自分がやるべき仕事を紹介し、自分のルーツを語り、次世代への希望とメッセージを記した本書は、21世紀の日本人に託した石ノ森氏の遺言のようにすら感じられます。

本書では、石ノ森作品の生まれた背景などが、作者の言葉で明らかにされています。本書を読めば、私と同世代の皆さんは、昭和の雰囲気にとっぷり浸れますし、若い皆さんは、日本の高度経済成長期の活気がどのようなものであったのか窺い知ることができると思います。

本書は、1998年9月にNTT出版から刊行され、その後、2003年12月に鳥影社から刊行されました。鳥影社のものは、NTT出版から刊行されたものに、一部加筆・修正が加えられ、また、付録部分に、矢口高雄氏の漫画短編作品や、奥様の小野寺利子様のメッセージ等が追加されています。

紹介者 特許審査第二部運輸 山口 直

(注) 石ノ森章太郎氏は、1986年に、ご自分のペンネームを、「石森章太郎」から「石ノ森章太郎」に変えられています。本稿では、「石ノ森章太郎」で統一しました。

また、ご自身は、1989年に手塚治虫氏の追悼作品中で、「萬画宣言」をし、「漫画」や「マンガ」、「劇画」など全てを含む、「萬画」という言葉を提案し、ご自身の職業も「萬画家」と称していました。石ノ森氏の遺志を尊重すれば「萬画」という表記がいいのですが、この事実を知らない読者も多いと思われるので、本稿では、「漫画」、「マンガ」という表記にしました。